

平成 29 年度 第 2 委員会 行政視察復命書

H29.10.23

4 番 間野みどり

日 時 平成 29 年 10 月 10 日（火）～10 月 12 日（木）

- 視察先
1. 心の森・多夢の森（神戸市）
幼保連携型認定こども園・児童発達支援・
放課後デイサービス等 施設一体型の運営について
 2. 東山泉小中一貫校（京都）
施設分離型小中一貫校の運営について
 3. 地域医療の推進について（舞鶴市）

以上の行政視察に行きましたので報告いたします。

1. 心の森・多夢の森（神戸市） 幼保連携型認定こども園・児童発達支援・
放課後デイサービス・老人デイサービス・施設一体型の運営について

源平合戦の舞台になった瀬戸内海。そんな歴史を感じながらも穏やかな海の近くに、この社会福祉法人みかり会の心の森・多夢の森の施設がありました。

保育園のルーツをたどるとドイツから…その考えを取り入れた建物は今まで見てきたこども園とは異なり、ヨーロッパ風の素敵なカフェのような感じでした。

心の森をひと目見た時、「宮崎駿監督の『崖の上のポニョ』みたい」と思わず口から出ていました。

内装も温かい雰囲気、観葉植物が上から垂れ、優しい空気が流れていました。園庭は自然の崖を利用し、丸太を使って整備したり、自然の散歩道のような

でした。

その中で、利用者のおばあちゃんが「まあまあ遠くから、いらっしゃったんですね」とにこやかに声を掛けてくれました。

こども園は、ちょうどお泊り保育の準備中で、肝だめしのお墓と塔婆を一生懸命つくっていて、自由な発想が楽しそうでした。

その上部にパン工房があり、つくりたてのパンをすぐ下のカフェで売っていて迎えに来た保護者が利用し、憩いの場になっているようでした。

多夢の森では、安心して過ごしている障がい者もみてきました。

施設の割には駐車スペースが狭く感じましたが、自転車利用やその地域性もあるようで、こども園イコール広い駐車場というのは、ところにより違うということも知りました。

働いている人が少し若い方が多いように思い、私の方から質問をしました。「伊豆市の私立のこども園は、常に人手不足でハローワーク等求人広告をし、募集している状況ですがこちらはどうか？」との問いに、やはり同じようだという事でした。特に、今3人産休中で、どこも雇用問題は深刻のようでした。

しかし、産休後等働きやすいよう、法人内に施設がたくさんあるので、希望を聞き、働きやすい環境をつくろうと努力しているようです。

また、頂いた冊子の中に、『お年寄りとの関わり～感性を培う』『お年寄りとの日常的な関わりがこの時期に獲得しなければならない人間らしさを培います』の文面がありとても印象に残りました。

なかなか財政面、雇用人数面等、このような施設の運営は難しいかもしれませんが、創意工夫は、伊豆市において参考になると思いました。

2. 東山泉小中一貫校（京都）施設分離型小中一貫校の運営について

JR京都駅から南東約1.5k、周辺には三十三間堂や東福寺があり京都のお寺に溶け込むような静かな場所にこの小中一貫校がありました。

一橋・月輪・今熊野の3小学校と月輪中学、計4校を統合した小中一貫校です。小1～小5までが西学舎、小6～中3が東学舎。両学舎は750m離れています。

やはり、今のような施設になるまで、準備期間が5年はかかったようです。

校長先生から、今までのいきさつや今の現状等聞きましたが、教育内容や学校行事はどうするのか？部活動は？給食は？新しい制度だけに保護者や地域の

人々から疑問が寄せられ、教育委員会や地域を巻き込んで 100 回以上協議を重ねたところが興味深かったです。

年間通して全体で集まることは、運動会と児童生徒総会ということでしたが、年齢の成長がみれて、大変良いという話でした。

また、京都独特の文化、番組小学校（地域がお金を出し合って建てた学校）や、古くからその地域にある習慣に対し、まだまだ大変な事がある事も知りました。

やはり、教員免許資格の壁もあるようで、いろいろ工夫している様子でした。日々の生活の中では、テストの答え方等統一し、不安をなくすようにしたということに、私自身、「いつまでもかばいきれるものではなく、他の世界もあり心配ではないか」と問うと、「ちょっとやりすぎかもしれない」と思っているとの回答でした。

また、校長先生の話の中で、プロ意識の強さも感じ、教科担任制をとっているが、「子どもに対する生徒指導等どうなっているか」という質問に、「良い授業をする教師は良い指導ができます」と力強く言った言葉に感激しました。

とはいえ、今までの様子等、こうなるまでは、いろいろな困難や努力をされたことは間違えないと感じました。

一つのことを、なるまでは、いろいろ話し合い研究し、いろいろ見て聞いて、一歩ずつ進むのではないかと思いました。伊豆市もそのようにしてもらいたいと思いました。

3. 地域医療の推進について（舞鶴市）

舞鶴というと引揚船の町、旧海軍の町というイメージでした。

町は、今も自衛隊関係があり、道幅は広く、とても整備が整っている印象です。しかし、商店街はシャッターが閉まっている所が多く、人口減はやはり感じました。

そしてもう一つ、肉じゃが誕生の地でもありました。

この人口減の中、地域医療は大変だったと市の説明がありました。

再編について、公的 4 病院を統合するのではなく、「選択と集中、分担と連携」により、「あたかも一つの統合病院」としての機能を持った、地域医療を進めていく努力をしたとの事。このような方法がある事も初めて知りました。

もう一つ、舞鶴市も伊豆市と同じく医師不足ですが、その中で、地域医療確保奨学金等貸付金（月 15 万～20 万）の制度があり、市内公的医療機関に勤務

する意思を有する医学生、研修医にあたえられる制度（一定期間、市内の公的医療機関で常勤医師として勤務した場合は、返還を免除する）を聞き、興味を持ち利用者数等質問しました。

- ・ H19年～H28年までの10年間貸与者数実人数 38人
- ・ 貸与者のうち公的病院に勤務した医師 16人
- ・ 平成29年4月の時点で公的3病院に勤務している医師 3人

いろいろな理由があり、大学病院に戻る方も多い事も事実であり、厳しい現実だと思いました。

その他、専門研修医研修支援事業、指導医若手医師確保対策事業等いろいろ努力しているようですが、どれも厳しいようです。

あと一つ、頂いた「小児医療の虎の巻」「お医者さんマップ」は市が工夫し、『コンビニ受診は押さえましょう』、『かかりつけ医を持ちましょう』等、市民に呼びかけている冊子は、これからの伊豆市にも参考になると思いました。

以上